

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月18日現在

機関番号：34429

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520479

研究課題名（和文）日本語形容詞・形容動詞データベース更新と
それに基づく計量分析および語構成史の研究

研究課題名（英文） Updating of a database of Japanese adjective and adjective verb
and quantitative analysis and a study about history of word
composition based on this database.

研究代表者

村田 菜穂子 (MURATA NAHOKO)

大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：60280062

研究成果の概要（和文）：今昔物語集・①キリシタン資料（天草版平家物語・天草版伊曾保物語・日葡辞書）、②狂言（天正狂言本、狂言六義、狂言記、虎明本狂言集、虎清狂言本）から形容詞を採取する作業を行い、抽出した各見出し語の認定についての検討および用例数の再点検を行うとともに、新たに採取された形容詞については造語形式や結合タイプ・副次結合の度合い等の語構成論的分析を行った。そして、これに基づき、語彙表を作成した。また一方で、これまで取り上げてきた上代形容詞および中古形容詞について、いくつかの計量的分析を行い、これらの実態の考察を深めた。

研究成果の概要（英文）：We extracted adjective from Konjaku Monogatari-Shu(the Tales of Times Now Past), Christian work(Amakusa ver. Heike monogatari, Amakusa ver. Isoho monogatari, Japanese-Portuguese Lexicon),Kyogen(Tensyo-Kyogenbon, KYogen-rikugi, Kyogen-ki, Toraakirabon-Kyogen-syu, Torakiyobon-Kyogen-syu). examined the recognition of each headword, and checked the number of examples again. And we analyzed the adjective that had been newly extracted from the point of view of the theory of the composition of the word. Based on this analyses, we made "A Contrastive Lexical List of Adjectives". Moreover, we did some quantitative analyses and considered in detail.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,220,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：語彙・意味

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

本研究に関連する先駆的研究としては、奈良時代から鎌倉時代に亘る作品 14 作品の自立語について、見出し語別使用頻などの統計情報を一覧表化した『古典対照語い表』（宮島氏）がある。

『古典対照語い表』以降に整備された索引も含めて、さらに収録作品数を拡充した（「平安文学における形容詞対照語彙表」（安部氏ら）や『平安時代複合動詞索引』（東辻氏）などが刊行された。

しかし、それらはいずれも一共時態に限定されているため、筆者らは、通時的な視点を備え、かつ、語構成様式の分析も含めた上代から中世に亘る作品の形容詞・形容動詞の語彙表の作成を押し進めてきた。

本研究では、さらに対象作品を広げ、語彙表を拡充しようとするものであり、この語彙表は、待望されてきた『古典対照語い表』に続く基礎資料として、日本語学研究に有益な資料を提供することになる。

2. 研究の目的

(1) 上代から中世に亘る通時的な視点に立ち、古典語の形容詞・形容動詞語彙について、語構造論および造語論の両観点から分析を行って、一つ一つの語の語構成を記述するとともに分類を行い、これらの情報を辞書に搭載する。

(2) (1) で収録した形容詞・形容動詞について、コンピュータによる量的データの分析的研究・実証的研究を行う。具体的には、上代形容詞・中古形容詞とそれ以降の形容詞の対照ならびに分析、また中古形容動詞とそれ以降の形容動詞の対照ならびに分析を行い、分布状況や形容詞と形容動詞の補償性などの体系的問題、その他の個別的問題を明らかにしていく。

(3) これまでのさまざまな研究成果を踏まえて、「形容詞の語構成史」および「形容動詞の語構成史」を構築する。

(4) 各語に記した質的データの精度を高める研究を行う一方で、質的データの数量化の方法や分析法の改善を目指す。また、質的データと量的データの同時的分析を行い、従来の研究方法では得られなかった知見を探索する。

3. 研究の方法

(1) 中世以降の資料から形容詞・形容動詞を採取し、中世以降の形容詞・形容動詞のデ

ータベースの更新を進め、コンピュータによる量的データならびに質的データの分析を行う。

①キリシタン資料（天草版平家物語・天草版伊曾保物語・日葡辞書）から採取した形容詞・形容動詞の語構成分析を行い、形容詞・形容動詞の一つ一つについて、語構成分析情報（語構造論的分析情報・造語論的分析情報）を配し、それぞれに分類コードづけを行う。これらの語構造論的分析情報と使用頻度の情報等、すべての情報を入力し、データベースを更新する。

②①のデータベースを元にして、下記のような量的データに関する資料を作成するとともに、計量的分析を行う。

(A) 使用頻度別対照語彙表（共通作品数付）／語末から引く逆引き索引

(B) 異なり語数、延べ語数、用語使用率などの資料

(C) 単語のレンジ（使用領域の広さ・狭さ）と使用度数の関係性、単語のウェイト（単語の使用頻度とレンジの関係）などの分析資料

(D) クラスタ分析（作品間の距離の分析）

③②で行った語構成分析結果を用いて質的な側面からの分析を行う。具体的には、中世以降の形容詞・形容動詞と上代資料・中古資料から採取された形容詞・形容動詞とを比較・対照しつつ、語構成様式および語種についての歴史的変遷について考察する。

④狂言（天正狂言本、狂言六義、狂言記、虎明本狂言集、虎清狂言本）から採取した形容詞・形容動詞の語構成分析を行い、形容詞・形容動詞の一つ一つについて、語構成分析情報（語構造論的分析情報・造語論的分析情報）を配し、それぞれに分類コードづけを行う。これらの語構造論的分析情報と使用頻度の情報等、すべての情報を入力し、データベースを更新する。

⑤上記の②の方法に準じて、狂言から採取した形容詞・形容動詞についても、量的データの分析を行う。

⑥上記の③の方法に準じて、狂言から採取した形容詞・形容動詞についても、質的データの分析を行う。

(2) (1) の分析結果をこれまでのさまざまな研究成果と照らし合わせ、通時的な視点に立ち、「形容詞の語構成史」および「形容動

詞の語構成史」を構築するとともに、従来の研究方法では得られなかった知見を探求する。

4. 研究成果

(1) これまでに採取した形容詞の分析の一環として、上代から中古にかけて、ク活用・シク活用にそれぞれどのような量的変化が起こっているのか、また、両形容詞にどのような質的变化(語構成の変化)が起こっているのかについて、特に、造語形式(複合的形容詞の各成分の結合の仕方)に着目し、考察を行った。

その結果、ク活用形容詞とシク活用形容詞とは、造語形式という点において明らかに異なる方向性を示すことが明らかになった(「ク活用形容詞とシク活用形容詞の量的構成と語構成」)。

(2) これまでに作成・公表した「古代語形容詞逆引き対照語彙表」(「上代資料」および「八代集」「中古散文作品」の中で使用された形容詞を対象に調査した使用頻度を語末からの逆引き配列で一覧にまとめたもの)を拡充するために、「訓点資料」「今昔物語集」「軍記物語」まで対象となる作品を広げた。

さらに、本研究の過程で明らかになった前回の公表以後に発見された見落としや誤りを修正した(「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表 : 上代～中世編(前編・後編)」)。

(3) 『今昔物語集』を新たに取り上げ、本作品で使用された形容詞の見出し語に焦点を当て、その体系的特徴について、上代形容詞と中古散文作品・八代集および訓点資料の形容詞との比較を交えながら量的な側面および質的な側面からその特徴を分析・考察した(「今昔物語集の形容詞の体系性 : 中古資料との比較を交えつつ」)。

(4) 室町時代の形容詞語彙を概観するための資料として、また、これまでに存在しなかった新たな語の認定の一助として『時代別国語大辞典 室町時代編』を取り上げ、本辞典に採録された形容詞の全貌を明らかにした(「『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞」)。

(5) 中世後期の形容詞を概観する資料の一つとして(4)の『時代別国語大辞典 室町時代編』に続き、『邦訳 日葡辞書』を取りあげ、本辞書で使用された形容詞の見出し語に焦点を当て、これまでに公表した資料ですでに使用されているか否かを対照できる形で語彙表にまとめた(「『邦訳 日葡辞書』の形容詞」)。

(6) 中古形容詞・形容動詞における量的構成の変化の時期と複合動詞「うち+動詞」に見られる語彙の変化の時期がほぼ重なることに着目し、単に「うち+動詞」だけの特徴なのか、他の複合動詞にも共通することかを明らかにするために、動詞由来の接頭辞を持つ10種類の複合動詞について分析を行い、通時的な考察を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

- ① 村田菜穂子、前川 武、動詞由来の接頭辞についての通時的考察(続稿)、大阪国際大学 コミュニケーション学部 コミュニケーション学科 異文化コミュニケーション、査読有、一連繋・連想・連帯一、2013、53-66
- ② 村田菜穂子、前川 武、動詞由来の接頭辞についての通時的考察、国語語彙史の研究、査読有、32巻、2013、135-147
- ③ 村田菜穂子、前川 武、『邦訳 日葡辞書』の形容詞、国際研究論叢、査読無、26-1巻、2012、157-168
- ④ 村田菜穂子、前川 武、『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞、国際研究論叢、査読無、25-2巻、2012、167-182
- ⑤ 村田菜穂子、今昔物語集の形容詞の体系性 : 中古資料との比較を交えつつ、国際研究論叢、査読無、25-2巻、2012、87-99
- ⑥ 村田菜穂子、前川 武、改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表 : 上代～中世編 (後編)、国際研究論叢、査読無、25-1巻、2011、199-231
- ⑦ 村田菜穂子、ク活用形容詞とシク活用形容詞の量的性格と語構成、国語語彙史の研究、査読有、30巻、2011、83-99
- ⑧ 村田菜穂子、前川 武、改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表 : 上代～中世編 (前編)、国際研究論叢、査読無、24-3巻、2011、179-201

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村田 菜穂子 (MURATA NAHOKO)
大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・教授
研究者番号 : 60280062

(2) 研究分担者

前川 武 (MAEKAWA TAKESHI)
大阪国際大学短期大学部・ライフデザイン総合学科・教授

研究者番号：30238844

(3) 連携研究者

山崎 誠 (YAMAZAKI MAKOTO)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・研究開発部門・准教授
研究者番号：30182489